

## グループ2 第3回ワークショップ 議事録

日時：8月4日 金曜日 午後6時～8時

場所：中部大学鶴舞キャンパス

テーマ：堀川に関わる連携方策

参加者（順不同）

氏名	団体名
松尾 直規	中部大学
東山 尚	(社)中部経済連合会
北川 直也	名古屋市堀川総合整備室
西田 忠司	名古屋堀川ライオンズクラブ
平田 忠志	名古屋市総務局
井上 祥一郎	伊勢、三河湾流域ネットワーク
古谷 健蔵	庄内川河川事務所
石浦 薫	観光ボランティアの会
加藤 敏夫	名古屋堀川ライオンズクラブ
服部 宏	名古屋堀川ライオンズクラブ
新村 孝行	中部地方整備局 河川部
高橋 慶彦	名工大プロジェクト堀川
開地 勇介	中部大学松尾研究室
川本 拓哉	中部大学松尾研究室

### 討論内容

#### 1. 市民団体の活動と交流に関する状況報告

##### (1) クリーン堀川

黒川ドリーム会（北区）、堀川とまちづくりを考える会（西区）、広小路セントラルエリア活性協議会（中区商店街）、堀川歴史探索会（中区）、堀川まちネット（熱田区）、全名古屋ライオンズクラブの6団体により構成。主な活動は、年2回の会報発行、9月の堀川一斉大掃除、年4回の総合学習会「堀川を考える小学生の集い」であり、事務局を名古屋都市センターにおいて月1回の情報交換を行っている。上記の区役所、都市センターが支援。

##### (2) ウォーターマジック懇談会

堀川の水辺利用に関して年2回の議論と、ウォーターマジックフェスティバルが活動の中心。事務局は中部経済連合会にあり、関係行政組織がすべて参加。当初の官主導型から現在では民主導型へ転換。

##### (3) 土岐川・庄内川流域ネットワーク

堀川ライオンズクラブ、堀川まちネット、黒川ドリーム会、名古屋市水辺研究会が月1回会合し、上下流の交流を図ると共に、年2回のクリーン大作戦を実施。

##### (4) 堀川千人調査隊

水質調査等のイベントを通じて、各団体の交流と一般市民の活動の場を提供。また、ネットを通じて堀川に関する各種情報を常時提供。

#### (5) その他

愛知川の会（河川協会個人会員の会）、堀川インフラ研究会（名工大）などが活動。

#### (6) 交流状況

各団体は、定期的な会合に加え、主として祭りやイベント（一斉大掃除、千人調査隊、WMF、堀川まつり等）を通じて交流を拡大。出入り自由の緩やかな協力とネットワークの拡大が必要であり、また、連携・交流のビジョンが求められているのが現状。

### 2. 連携のメリットとデメリット

#### (1) メリット

- ・ 情報の共有化
- ・ 交流の拡大
- ・ 各団体及びその連合体の活動をアピールする場ができる

#### (2) デメリット及び問題点

- ・ 各団体の目的が異なるので無理な統合は軋轢の元
- ・ 各団体の存在意義が喪失、あるいは小規模の団体が埋没する恐れ
- ・ 行政主導は適切でなく、人員も不足しているので、市民団体主導で行う必要があるが、連携に不可欠な費用および人的資源の確保が困難。
- ・ 大学（研究者）は、研究テーマから逸脱してまでの活動が困難。

### 3. 連携・交流のあり方

- ・ 交流の場としてコンセプトのない交流会が必要
- ・ 堀川カレンダーの活用等により、各団体のイベントに関してできるだけ多くの人に参加可能な日程調整や、盛り上がり期待できるイベントとの組み合わせが必要
- ・ いくつかの連携・交流拠点が存在し、それらがひとつの方向性（ビジョン）の下で緩やかに連携する分散型ネットワークの構築が良い
- ・ 各団体の活動を総合的にプロデュースする人材または事務局（例えば、加藤商会ビルに事務局を置き、総合プロデューサーを常置）が必要
- ・ 行政が実施する事業活動に関する情報公開とその情報の共有化
- ・ 行政は、サポート役に徹することが基本的姿勢

### 4. 今後の予定

- ・ 9月3日のプロジェクト中間報告会で、出席者に連携のあり方に関するアンケートを行う。
- ・ 各市民団体に連携のあり方に関するアンケート（WMFを利用？）を行う。
- ・ 次回のワークショップで、アンケート結果及びこれまでのワークショップの成果を踏まえ、連携方策に関する提言をまとめる。